

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐商業高等学校 学校番号 48

I 自己評価

2 評価する領域・分野	進路指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」という項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」という回答が保護者、生徒ともに9割に達した。適切な情報を早めに提供して個々の進路に応じた指導に努めたいとする目標を概ね達成できた評価だと受け止めたい。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい勤労観・職業観の育成 学年に応じたキャリア教育を推進し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的な進路選択ができるようガイダンスの機能を充実する。 生徒が自ら希望する進路を実現できるよう確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けるための指導を充実する。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップを実習先事業所ごとに全職員で担当する。 各学年団と連携し、共通意識、共通理解のうえで連携を図る。 渉外部と協力して保護者の意識を高める働きかけをする。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 土岐商WEP（インターンシップ） (2) ガイダンス、講演、講話 (3) 外部模試、小テスト、コラム書き写し、時事問題研究 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒、担当教員、実習先事業所からのアンケート (2) 生徒および担当教員からの感想 (3) 外部模試、適性検査は検査結果個票を返却 時事問題研究は参加継続の状況 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 1年生の2月に3日間実施 (2) 学年に応じてガイダンスを実施 (3) ハローワークや地元企業担当者からの説明会や大学模擬授業を開講 (4) 外部模試、適性検査は年間行事計画に従い実施 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「職業観・勤労観」育成に向けた機会となったか。 (2) 社会人として大切なことを理解できたか。将来の夢を思い描けたか。 (3) 基礎学力が身に付いたか。自己の適性や苦手科目の克服に向けた取り組みにつながったか。 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップは、全職員で事業所ごとに担当し、事前訪問から巡回指導、感想文や礼状などの事後指導まで、丁寧に指導できた。生徒も働くことの意義を理解し、やりがいを感じたと評価している。 ○働くことや将来設計に関する外部講師の講話は、興味深く聞かせることができた。学年ごとのガイダンスや説明会、講話を通して、勤労観・職業観が徐々に形成され、3年次には明確な進路希望を描き、進路実現した生徒が多かった。 ○就職試験や入学試験に向けて意欲的に情報を収集し、積極的に面接指導を依頼するなど試験対策をして臨んだことで、不合格者が少なかった。 ○時事問題研究、コラム書き写し、小テストは、年間を通じて継続できた。 ○外部模試で、添削後の振り返り学習を行うことができた生徒は、学習意欲が高まり、自己の実力を知って学習意欲を高め、効果的な取り組みができた。 ●入りたい学校に挑戦するケースが少なく、担任の勧めにも応じない消極的な選択が見られた。 ●看護希望者に対する補習は担当者との連携不足で支援が不十分であった。 ●実用英検2級などの指定校推薦の条件を満たすことができず、希望を叶えられないケースがあった。資格取得に向けた、さらなる働きかけが必要である。 		<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案			
<ul style="list-style-type: none"> (1) 社会人、職業人として自立するために求められる能力や態度を認識し、主体的に進路を選択する力をつけるため、土岐商WEPを継続し、講演や講話を効果的に実施する。 (2) 高い目標を定めて、その実現に向けた継続的な取り組みを支援する。そのため、国公立大学や難関私大、倍率の高い企業へ挑戦させるために基礎学力の定着を図り、時事問題と小論文対策を強化する。また、自己アピールポイントを増やせるような活動の必要性を認識させる。 (3) 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解させるために、適性検査やインターンシップを継続実施する。 			